

## 議事（2） JR小樽駅前広場再整備基本計画の進め方について

1. 基本計画の目的と体制
2. 基本計画の全体構成
3. 基本計画策定スケジュール

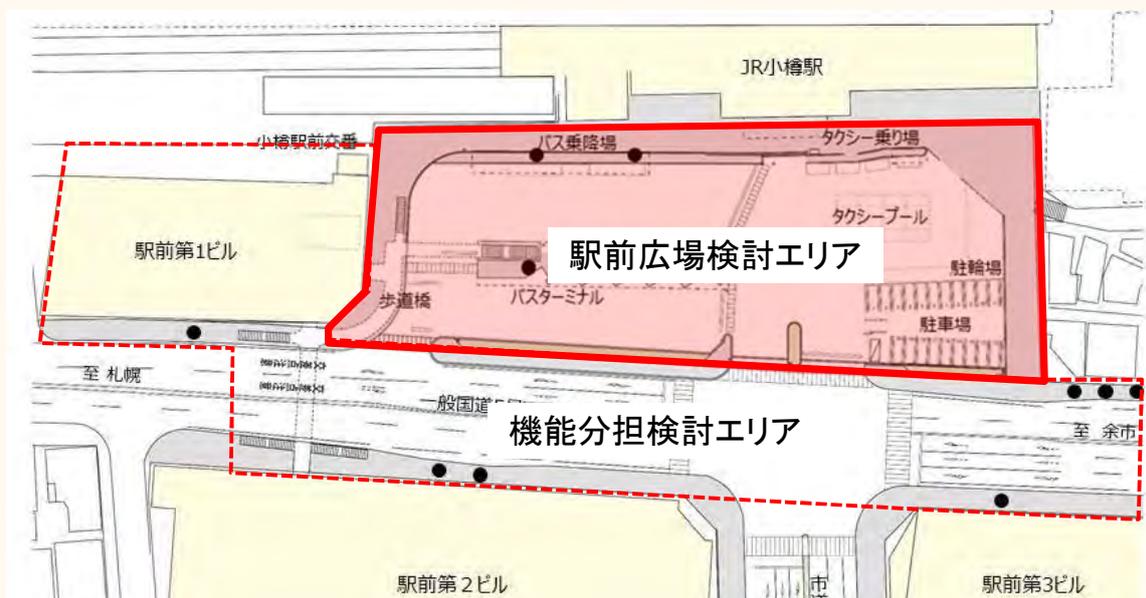
## 議事（3） まちづくりの方向性等について

4. まちづくりの方向性
5. 小樽駅前広場等の現状

## 1.基本計画の目的と体制

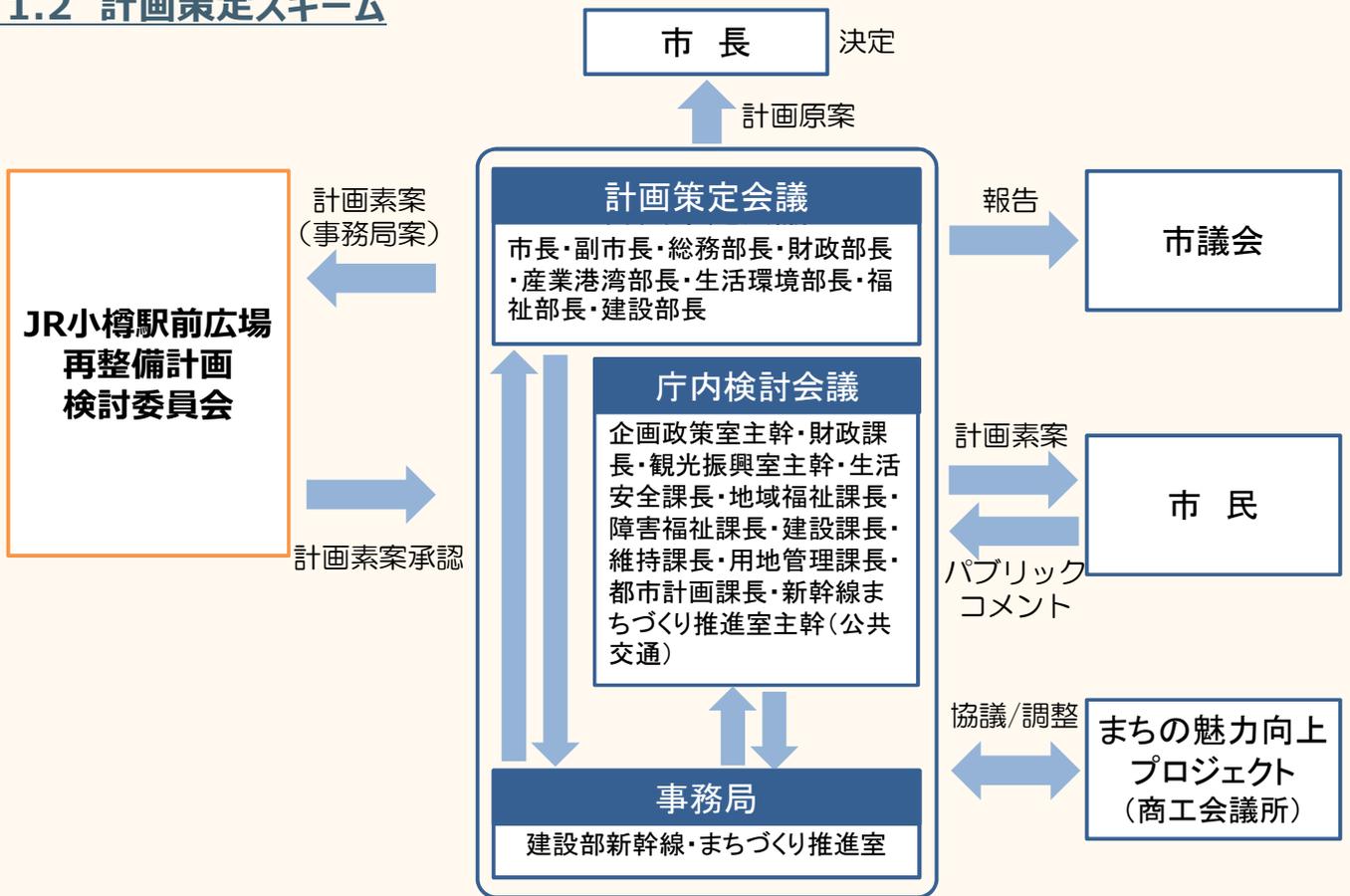
### 1.1 目的

整備から40年以上経過した「JR小樽駅前広場」について、再開発の準備が進められている「小樽駅前第1ビル」との連携による広場機能の分担等を考慮しながら、安全で機能的な交通拠点となるよう再整備する基本計画『JR小樽駅前広場再整備基本計画』を策定を目指す。



# 1.基本計画の目的と体制

## 1.2 計画策定スキーム



2/37

# 2.基本計画の全体構成

## 2.1 JR小樽駅前広場再整備基本計画の全体構成

### 第1章 序章

計画の背景・目的、位置づけを整理

### 第2章 まちづくりの方向性

小樽駅前広場に係る上位・関連計画を整理し、本市のまちづくりにおける「小樽駅前広場に求められる役割」を設定

〈上位計画〉

- ・第7次小樽市総合計画
- ・第2次小樽市都市計画マスタープラン

〈関連計画〉

- ・小樽市総合戦略
- ・北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画
- ・小樽市地域公共交通網形成計画
- ・小樽市緑の基本計画
- ・小樽市景観計画
- ・第二次小樽市観光基本計画
- ・第10次小樽市交通安全計画
- ・小樽市高齢者保健福祉計画
- ・第3期小樽市障害者計画
- ・(仮称)小樽市強靱化計画

①小樽駅前広場に  
求められる役割

3/37

## 2.基本計画の全体構成

### 2.1 JR小樽駅前広場再整備基本計画の全体構成

#### 第3章 小樽駅前広場等の現状

小樽駅前広場等の現状と同広場の利用状況を、既存資料等から整理（一部調査実施）するとともに、同広場およびその周辺に対する市民意識調査を実施することで、現状から導かれる検討事項を整理

##### <現状整理>

- ・現在の駅前広場の整備概要（空間構成、施設概要）
- ・市勢概要（人口推移・推計、高齢化率、乗用車保有率、観光入込客数推移等）
- ・既存資料から広場内施設の利用状況について整理
- ・既存資料にないタクシー、送迎車両、駐輪場は、交通量調査を実施し、利用状況を整理

##### <周辺環境等の整理>

- ・周辺環境（バス停位置、歩道橋、都市の顔（景観等）、市街地連携）
- ・北海道新幹線の札幌延伸

##### <市民意識の把握>

- ・過去の市議会やまちづくりシンポジウムにおける小樽駅前広場に関する意見等を整理
- ・市民アンケートを実施し、小樽駅前広場および周辺に関する問題点や意見等を把握

②小樽駅前広場等の現状整理  
（一部現況調査実施）

③周辺環境等の整理

④小樽駅前広場に対する  
市民意識の把握  
（市民アンケート調査実施）

4/37

## 2.基本計画の全体構成

### 2.1 JR小樽駅前広場再整備基本計画の全体構成

#### 第4章 小樽駅前広場の問題点および課題

小樽駅前広場に求められる役割と、現状や利用状況の整理・市民意識の把握から、小樽駅前広場における問題点と、問題点の解決のために必要な対応（課題）を整理

#### 第5章 小樽駅前広場の再整備方針

小樽駅前広場の課題から、再整備における「基本コンセプト・再整備方針」を設定

#### 第6章 再整備基本計画

施設規模の算定・配置計画等を行い、「再整備基本計画案」を作成（3案程度）

→関係機関と調整の上、「最終案」を決定（令和3年度）

⑤小樽駅前広場の問題点

⑥小樽駅前広場の課題

⑦基本コンセプト・再整備方針

⑧施設規模算定・配置計画

⑨再整備基本計画案作成  
（3案程度）

最終案決定  
（令和3年度）

5/37

### 3.基本計画策定のスケジュール

#### 3.1 スケジュール（案）

年度	令和2年度									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討委員会		第1回 ・本年度の検討内容 ・現状と問題点・課題 ・基本コンセプト・再整備方針（案） ・市民アンケート、交通量調査概要					第2回 ・基本コンセプト・再整備方針 ・施設規模算定・ゾーニング計画 ・再整備イメージ（案） ・市民アンケート結果報告		第3回 ・再整備基本計画案(複数案)	
調査検討等	・現状の整理 ・問題点課題の整理	・基本コンセプト・再整備方針の設定 ・施設規模の算定・ゾーニング計画の検討 ・再整備イメージ（案）の作成				再整備基本計画案の検討				
		・市民アンケート調査/分析 ・交通量調査/分析								

年度	令和3年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討委員会								第4回			第5回	
調査検討等	関係機関協議（再開発準備組合等）					・再整備基本計画案絞り込み ・素案（1案）作成			パブリックコメント			

6/37

### 4.まちづくりの方向性について

#### 4.1 上位・関連計画の整理

##### ● 小樽駅前広場に係る上位・関連計画

	計画名（【 】内は略称）	目標年	策定年	駅前広場に関する方針等
上位計画	第7次小樽市総合計画【総計】	R10	R元.10	小樽駅周辺等の機能・魅力の向上 魅力ある都市景観の形成 並行在来線の経営分離に伴う広域交通等のあり方検討
	第2次小樽市都市計画マスタープラン【都市】	R21	R2.4	交通結節点機能を高めるための機能更新 小樽らしい都市景観の創出 多くの人を呼び込み交流するための空間確保 潤いと活力に満ちたまちづくり
関連計画	第2期小樽市総合戦略【総戦】	R6	R2.7	快適な歩行空間の確保
	北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画【新駅】	-	H29.3	小樽駅と新小樽(仮称)駅を結ぶ交通手段の強化
	小樽市地域公共交通網形成計画【網計】	R7	R元.5	交通結節点の利便性強化
	小樽市緑の基本計画【緑計】	R2	H16.7	公共公益施設の緑化の推進
	小樽市景観計画【景観】	-	H21.2	海側から小樽駅を見通すことができる等、小樽独特の景観を保持
	第二次小樽市観光基本計画【観光】	R8	H29.4	小樽駅からの眺望や有形文化財といった観光資源を合わせた演出 交通アクセスについての情報提供
	第10次小樽市交通安全計画【交安】	R2	H29.3	自動車・歩行者等の異種交通の分断された道路交通環境の形成
	小樽市高齢者保健福祉計画【高齢】	R2	H30.3	公共施設のバリアフリー化
	第3期小樽市障害者計画【障害】	R8	H29.3	交通機関等のバリアフリー化の推進
(仮称)小樽市強靱化計画【強靱】	-	R2予定	災害時において交通施設としての機能を発揮するための機能及び安全性向上	

7/37

## 4.まちづくりの方向性について

### 4.2 小樽駅前広場に求められる役割

- 上位・関連計画から、小樽駅前広場に求められる役割を設定

役割1 交通空間としての機能確保	
交通空間は、「交通結節点」としての機能を担う空間であり、JRやバスなどの交通手段相互の乗り換えや歩行が安全かつスムーズに行える空間とする	
内容	関連計画
(1) JR小樽駅周辺を含めた歩車分離・バリアフリー化による、安全で快適に歩行できる空間の確保	総計/総戦/高齢/障害/交安
(2) 乗り継ぎ環境の改善による利便性の向上	総計/都市/網計
(3) 新幹線新駅や観光資源との交通アクセスを含めた利便性の高い交通ネットワークの形成	新駅
(4) 並行在来線の経営分離に伴う広域交通等のあり方を考慮した交通環境の形成	総計

8/37

## 4.まちづくりの方向性について

### 4.2 小樽駅前広場に求められる役割

- 上位・関連計画から、小樽駅前広場に求められる役割を設定

役割2 環境空間としての機能確保	
環境空間は、「都市の広場」としての機能を担う空間であり、人々の憩いや情報収集の場としての「交流機能」や「情報発信機能」、歴史や風土といったその都市の特徴を踏まえ、駅舎等との調和に配慮された都市の顔となる「景観機能」を有した空間とする	
内容	関連計画
(1) 中心市街地における人の移動を活発にするため、歩行者が安全かつスムーズに移動できる、快適な歩行者動線の確保	都市/総戦
(2) 街並みなど地域の特性を生かしてまちの魅力を高め、多くの人を呼び込み交流するための空間の確保	総計/都市/緑計
(3) JR小樽駅からは海・港を、海側からは山並みやJR小樽駅を見通すことができる等、他都市にはない小樽独特の景観の保全	総計/都市/景観/観光
(4) 交通アクセスについての情報提供など	観光
(5) 災害時において交通施設として機能を発揮するための機能及び安全性の向上	強靱

9/37

## 5.小樽駅前広場等の現状

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ① 駅前広場

※JR小樽駅を起点とし第3号埠頭までの歩行者動線を歩行者骨格軸として表現

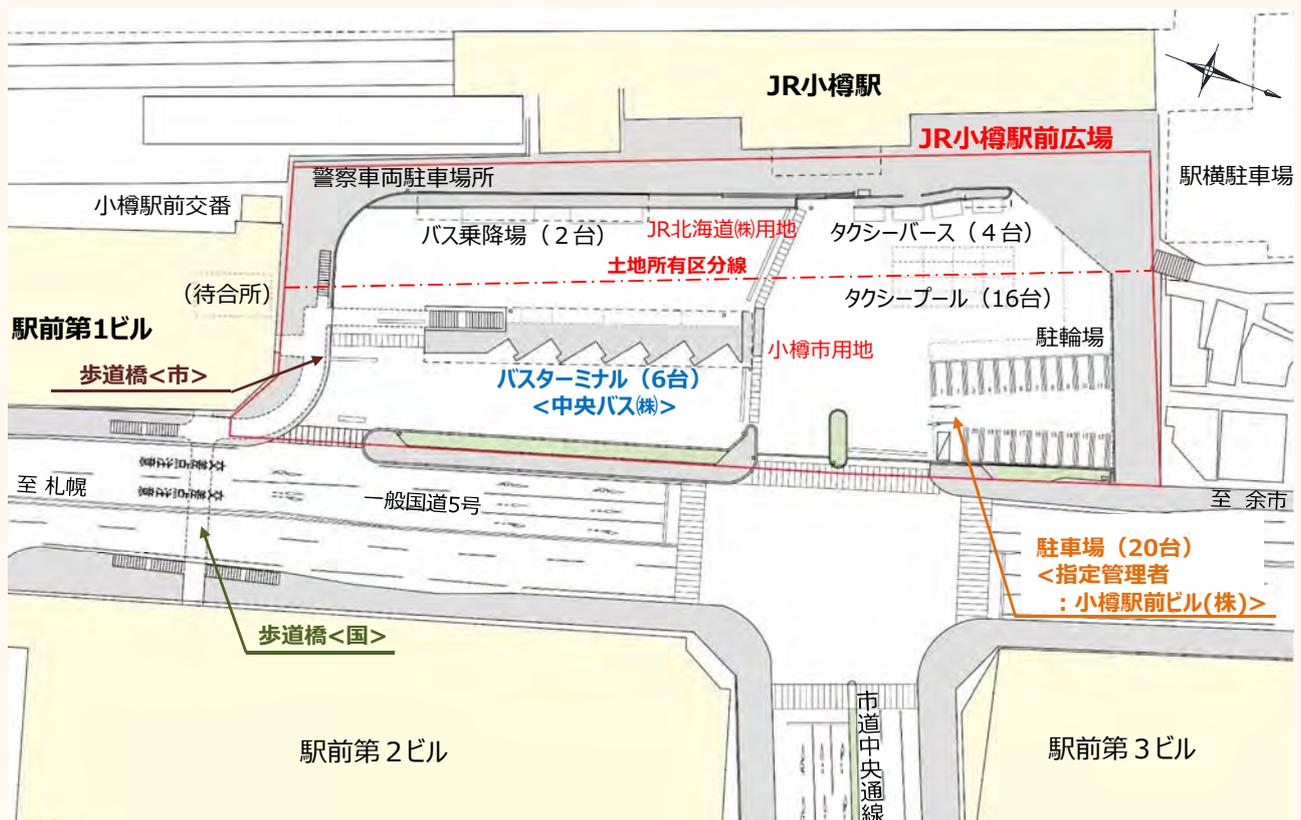
項目	現状及び社会情勢の変化		
A.駅前広場 (S51整備)	空間構成	駅広両サイド及び中央に歩行者通路、バリアフリーに対応したスロープ有	
		中央の横断歩道（幅2m）は委任信号で制御	
		中央の横断歩道とバスの車路は2か所で交差	
		バス・タクシー・駐車場区画で各々分離され、共用の車路で国道5号と交差（共用の車路は区画線による誘導なし）	
	施設概要	人が集まれるようなオープンスペースなし	
		公共交通の総括的な案内は小樽駅舎内の1か所となっている	
	関連施設	JR小樽駅、レンタカー施設、交番	
	利用者	JR乗車人員	9,459人/日(2018年度（H30年度）)
		交通量	駅前交差点出入台数：3,731台/12h(2017年（H29）平日)
		人口	115,621人(2019.3現在)
推計人口		2030年（R12）：89,561人、2040年（R22）：69,422人	
高齢者人口		46,342人(2019.3現在)	
推計   2030年(R12)：39,352人、2040年(R22)：34,403人			
高齢化率		40.08%(2019.3現在)	
推計   2030年(R12)：43.9%、2040年(R22)：49.6%			
自動車保有率	1976年（S51）：26%(全国)、2017年（H29）：45%(北海道)		
観光入込客数	6,992千人(2019年度（R元年度）)		
B.周辺環境	バス停	駅前広場内:8箇所、国道5号:8箇所(小樽駅前)、中央通:1箇所(小樽駅前通)	
	歩道橋	第1,2ビルからバスターミナルへの連絡通路設置（1975年(S50)設置）	
	都市の顔	JR小樽駅舎は国の有形文化財に登録（2006年（H18）） 海や駅からの景観は市都市景観賞を受賞（2009年（H21））	
	市街地連携	小樽駅を起点として3号埠頭までの歩行者骨格軸（※）を形成	
C.新幹線	開業	2030年度（R12年度）札幌延伸予定（新小樽（仮称）駅も同年度開業予定）	
		新幹線開業後、並行在来線はJRから経営分離	

10/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ① 駅前広場 | 施設配置



11/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ②駅前広場 | 信号機

- JR小樽駅前広場中央には、車両動線用の車両用信号機が設置されており、一般国道5号交差点～JR小樽駅舎の歩行者動線には、歩行者用信号機が設置されている

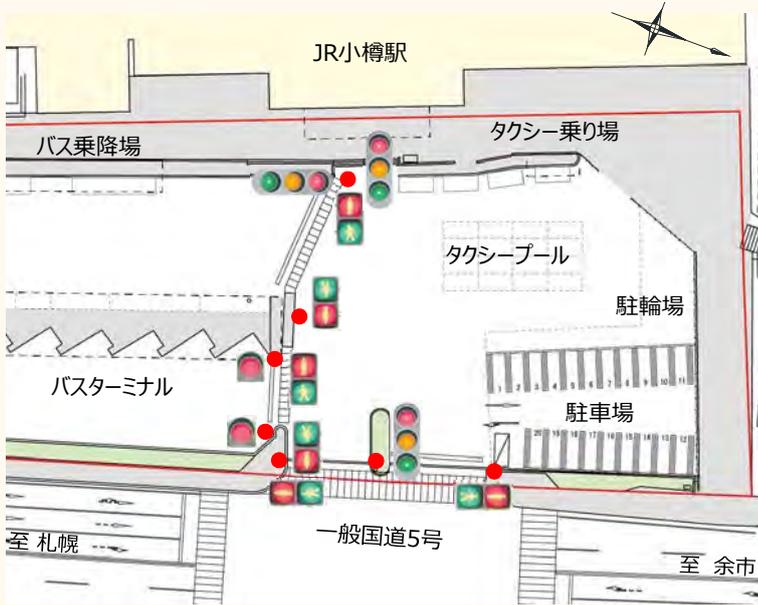


図 信号機設置状況



信号機設置状況

12/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ③駅前広場 | 駐車場

- JR小樽駅前広場内の北側には一般車両用の駐車場（小樽市駅前広場駐車場）があり最大20台まで駐車可能である。駐車マスは全て一般車両用サイズで、障害者用駐車スペースは確保されていない。
- 駐車場～駅舎までの歩行者の動線は、駐車場北側の歩道を経由するルートとなるが、広場内車道部を横断して直接駅舎または駐車場に向かう利用者が多く見られる。

表 小樽市駅前広場駐車場の概要

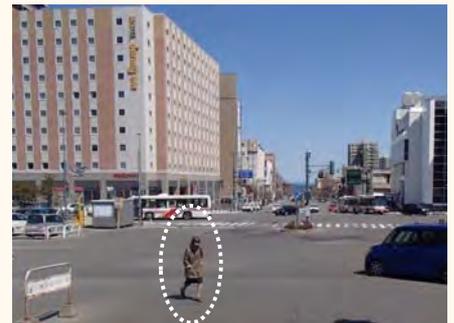
駐車台数（年中無休）		時間貸し：20台
駐車料金	8:00～22:00	駐車後30分間無料 (以降20分毎¥100)
	22:00～8:00	1時間毎¥50



駐車場入口



利用者の車道横断



利用者の車道横断

13/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ④ 駅前広場 | 駐輪場

- JR小樽駅前広場北側には、自動二輪車も駐輪可能な駐輪場があり、約150台分※の駐輪スペースが確保されているが、区画線等による明確な区切りやサイクルラック等の駐輪施設は設置されていない
- 駐輪場スペースは、冬期間は雪置き場として利用されている

※…駐輪可能スペース延長：約90m、自転車専用幅W=0.6m/台より $90 \div 0.6 = 150$ 台



駐輪場全景



駐輪状況①



駐輪状況②

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ⑤ 駅前広場 | バス

- 高速バスと路線バス合わせて平日373便、休日320便の乗り入れがあり、バスターミナルを中心に、北海道中央バス株式会社、ジェイ・アール北海道バス株式会社、ニセコバス株式会社の3社により計30系統が運行され、小樽市のバス路線の交通拠点となっている
- バス乗降場は、駅舎側に2箇所、バスターミナルに6箇所あり、駅舎側のバス乗降場にはシェルターが設置されており、バスターミナル内と駅前第1ビル1階に待合所がある
- バス待機場（バスプール）がないため、待機するバスはバスターミナルの駅舎側や国道側で待機している状態である

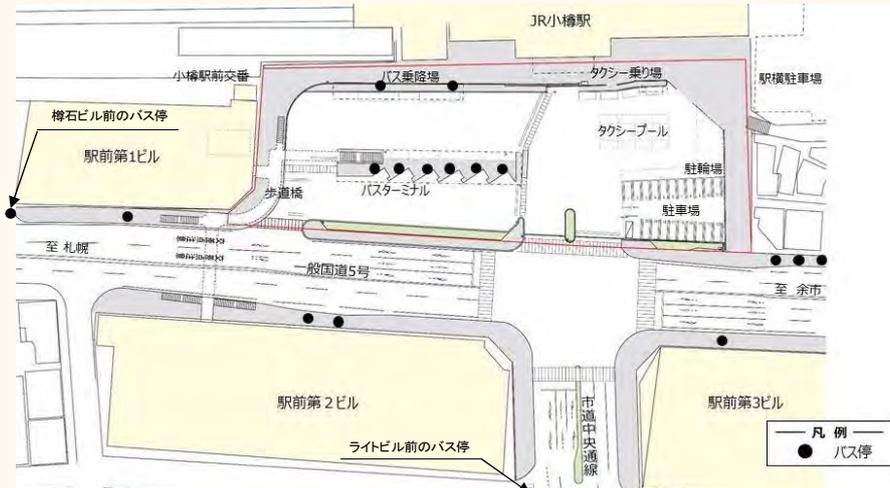


図 JR小樽駅前周辺バス乗り場

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ⑤ 駅前広場 | バス



バスターミナル



駅舎側バス乗降場



バスの待機状況

16/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ⑥ 駅前広場 | タクシー

- 駅舎正面にタクシーバースが4台、広場中央にタクシープールが16台あるが、どちらも区画線等による明示はないため、タクシー事業者により適宜運用されている（タクシーバースは乗車専用であり、降車用のバースはなし）
- タクシー乗り場は、駅舎のフロアレベルと高低差があるため、スロープでアクセスする形となっており、タクシー乗り場には1台分のシェルターが設置されている
- 冬期間は、駐輪用が雪置き場として利用されているためタクシープールは狭くなる



タクシー乗り場



タクシープール



スロープ

17/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ⑦ 駅前広場 | 送迎車

- JR小樽駅前広場には送迎車用のバースがないため、送迎等で駅前広場を利用する多くの車両は、駅舎正面に駐車している状況である



駅舎正面への一般車両の駐車状況



車いす使用者の送迎状況

18/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ⑧ 広場内施設の利用状況（既存資料より）

- 既存資料からバスやJR、広場内駐車場の利用状況は以下のとおり
- タクシー、送迎車両、駐輪場は既存資料が無いことから、今年度、交通量調査を実施し利用状況を把握

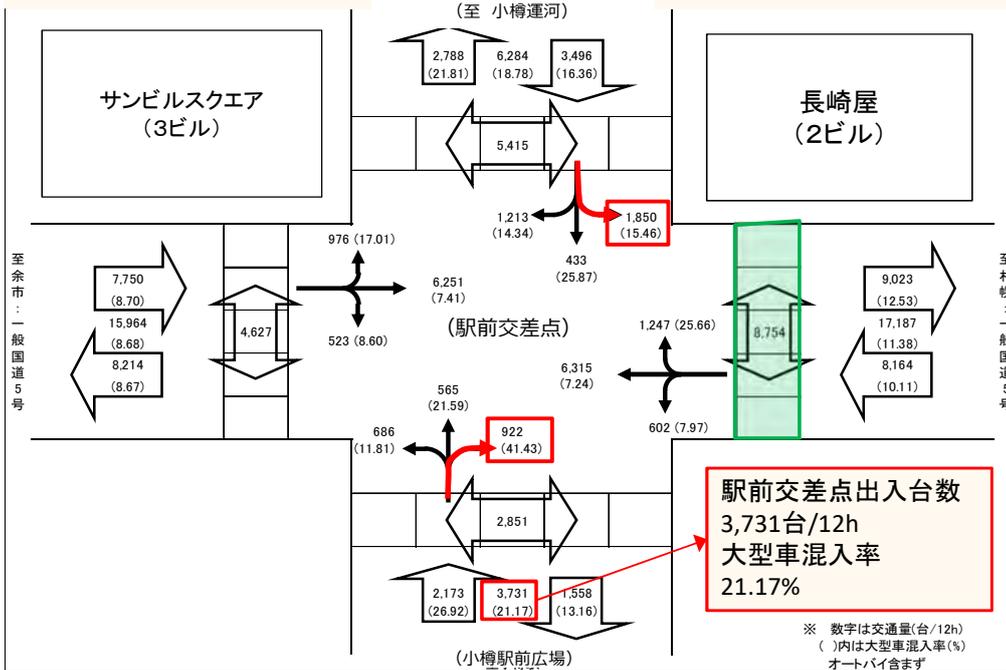
項目	利用状況	備考
JR	年間乗車人員：3,430千人 (2017年度(H29年度)実績) 日乗車人員：9,459人 (2018年度(H30年度)実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小樽市統計書(H30年版)</li> <li>● JR北海道HP</li> </ul>
バス	平日:373便/日(2020年(R2)4月現在) 休日:320便/日(2020年(R2)4月現在)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高速バス含む</li> <li>● 中央・JR・ニセコバス時刻表</li> </ul>
駐車場	年間利用台数：83,210台 (内、無料55,227台・有料27,983台) 日平均利用台数：228台 (内、無料151台・有料77台) (2019年度(R元年度)実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指定管理者利用状況報告書</li> <li>● 駐車場は30分無料</li> <li>● 駐車台数は20台</li> </ul>
タクシー	R2年調査予定	
駐輪場		
送迎車両		

19/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ⑨ 駅前交差点の交通量（H29市調査）



- 駅前第2ビルと駅前広場をつなぐ横断歩道（緑着色箇所）が駅前交差点で一番歩行者が多く（8,754人/12h）、かつ、歩行者と交差する車両が多く、特に、小樽駅前広場から右折する大型車が多い（大型車混入率41.43%）
- 駅前広場内の大型車混入率は21.17%と高い（一般国道で15%程度(平日都市部)）

※ 1：当図は平成29年度小樽駅前周辺地区交通量調査委託業務報告書より抜粋

※ 2：平成29年9月28日（木）調査

20/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ⑩ 人口の推移・推計

- 小樽市の人口は年々減少が進行、5年ごとに約1万人の減少が続き、2040年（令和22年）には、7万人弱の推計
- 老年人口（65歳以上）の総人口に占める割合は相対的に上昇を続け、2040年（令和22年）には高齢化率が5割弱になる見通し



図 人口推移と将来人口推計

出典：「第2次小樽市都市計画マスタープラン」より作成

21/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ⑪ 乗用車保有率

- 2019年（令和元年）の北海道における乗用車の保有率は、駅前広場が供用開始された1976年（昭和51年）に比べ約3.3倍に増加

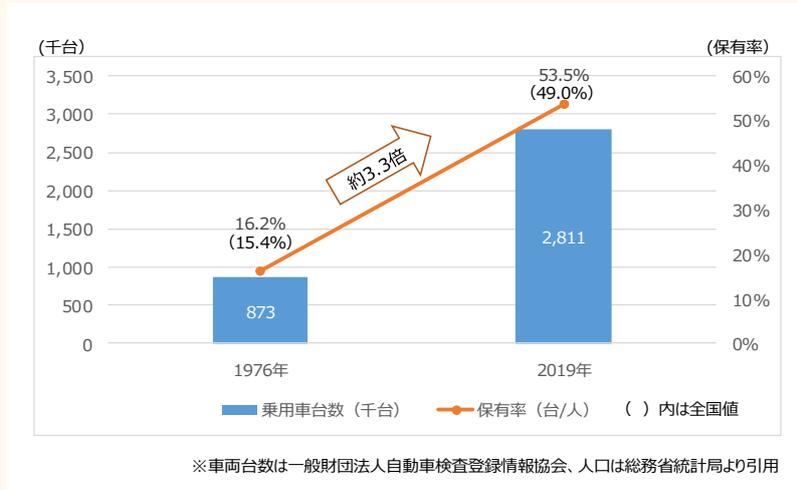


図 北海道における乗用車保有率  
出典:「自動車検査登録情報協会」、「総務省統計局」より作成

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ⑫ 観光入込客数（道内における本市の状況）

- 2013年度（平成25年度）に700万人を超えてから概ね横ばいで推移し、2018年度（平成30年度）は781万人で札幌市に次いで全道2位の観光入込客数となったが、2019年度（令和元年度）は7年ぶりに700万人を下回った
- 道内客7割、道外客3割のまま推移していたが、近年は道外からの観光客が増加し、2019年度（令和元年度）は道外客の割合が全体の約43%



図 観光入込客数の推移(道内外別)  
出典:小樽市観光入込客数

図 観光入込客数の多い市町村(平成30年度)  
出典:北海道観光入込客数調査

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ⑫観光入込客数（過去10年間の推移）

- 小樽市を訪れる外国人の宿泊者数は年々約2割の増加が続き、2018年度（平成30年度）には約29.5万人で10年前に比べ約6倍となったが、2019年度（令和元年度）は前年に比べ減少

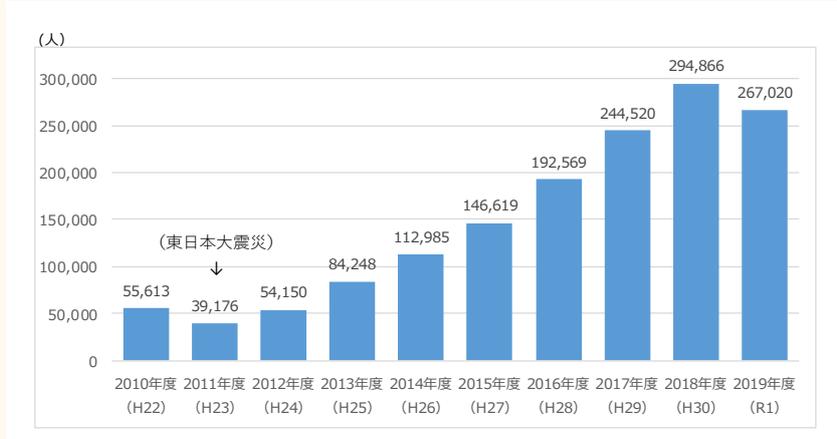


図 外国人宿泊者数の推移  
出典: 小樽市観光入込客数

## 5.小樽駅前広場等の現状について

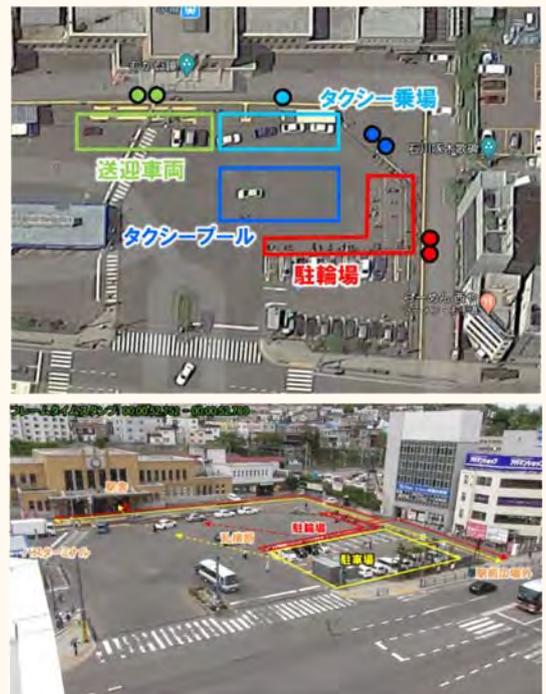
### 5.1 広場施設の現状に関する事項の整理（施設配置と利用状況）

#### ⑬交通量調査の実施（既存資料から得られない情報の調査）

- 送迎車両、駐輪場、タクシーの時間帯別・車種別の数、動線方向、平均滞在時間等の利用状況を確認し、現駅前広場の交通利用実態・問題点等を把握（今年度実施予定）

調査方法	調査員の目視による観測 ビデオカメラによる撮影
調査時期・時間	2020年（令和2年）8月～9月の平日1日 AM7時～AM10時（3時間）
調査箇所	右図参照
調査結果 活用方法	駅前広場内の動線や施設の配置・規模を計画する際の参考資料として活用

調査項目	調査内容
タクシー乗り場利用状況調査	タクシー乗り場の利用台数、乗車人数
タクシープール利用状況調査	タクシープールの利用台数、時間別駐車台数
送迎車両利用状況調査	送迎のために駅前広場を利用する車両の台数・乗降人数
駐輪場台数調査	駐輪場の利用台数（自動二輪・自転車）
方向別利用者数調査	駐車場、駐輪場利用者の利用目的と車道横断の状況
駅前広場流入出交通量調査	駅前広場交差点（国道5号）からの流入・流出の交通量（H29交通量調査との比較用）



調査箇所図

# 5.小樽駅前広場等の現状について

## 5.2 小樽駅前広場の周辺環境等

### ①周辺環境

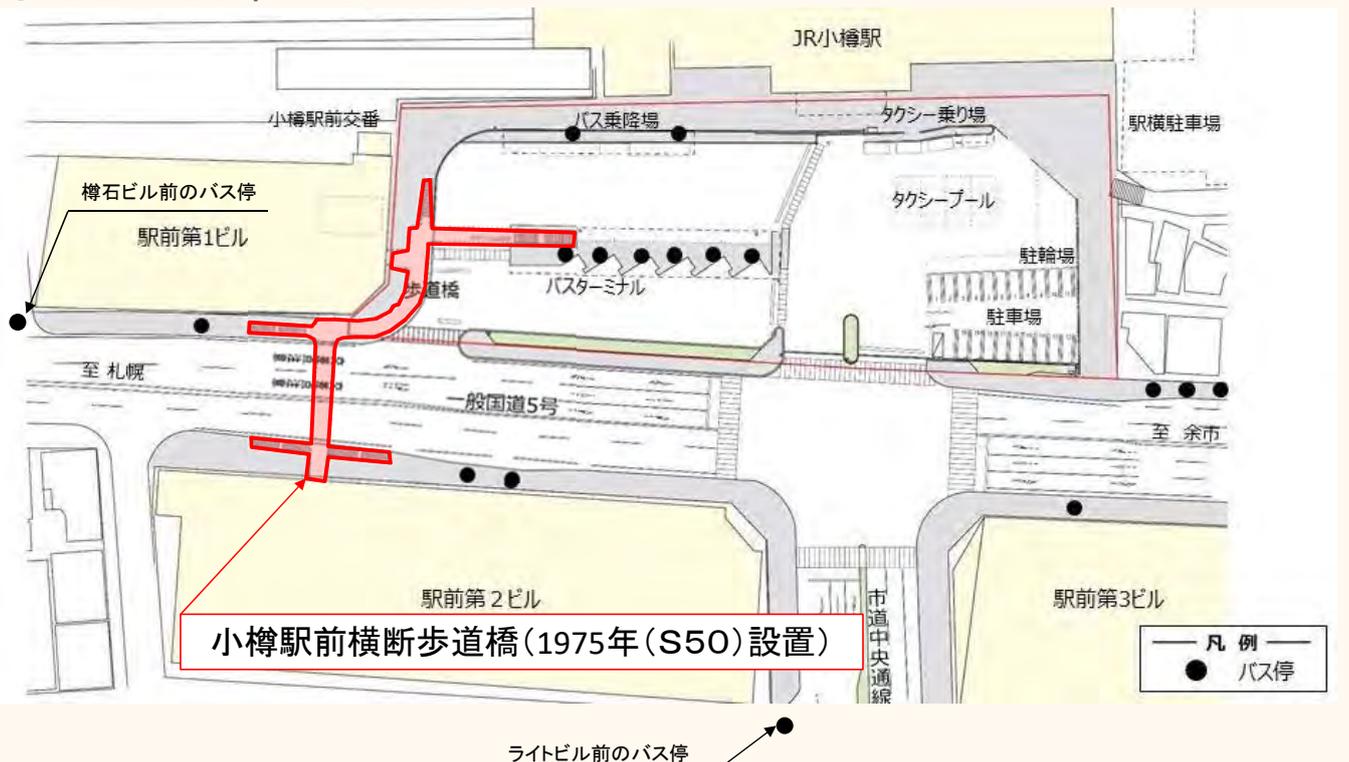
※JR小樽駅を起点とし第3号埠頭までの歩行者動線を歩行者骨格軸として表現

項目	現状及び社会情勢の変化	
A.駅前広場 (S51整備)	空間構成	駅広両サイド及び中央に歩行者通路、バリアフリーに対応したスロープ有 中央の横断歩道(幅2m)は委任信号で制御 中央の横断歩道とバスの車路は2か所で交差
		バス・タクシー・駐車場区画で各々分離され、共用の車路で国道5号と交差(共用の車路は区画線による誘導なし) 人が集まれるようなオープンスペースなし 公共交通の総括的な案内は小樽駅舎内の1か所となっている
	施設概要	駐車場:20台,自転車等:150台,バスバース:8台,タクシーバース:4台(乗車のみ),タクシープール:16台
	関連施設	JR小樽駅、レンタカー施設、交番
利用者	JR乗車人員	9,459人/日(2018年度(H30年度))
	交通量	駅前交差点出入台数:3,731台/12h(2017年(H29) 平日)
	人口	115,621人(2019.3現在)
	推計人口	2030年(R12):89,561人、2040年(R22):69,422人
	高齢者人口	46,342人(2019.3現在) 推計 2030年(R12):39,352人、2040年(R22):34,403人
	高齢化率	40.08%(2019.3現在) 推計 2030年(R12):43.9%、2040年(R22):49.6%
	自動車保有率	1976年(S51):26%(全国)、2017年(H29):45%(北海道)
	観光入込客数	6,992千人(2019年度(R元年度))
B.周辺環境	バス停	駅前広場内:8箇所、国道5号:8箇所(小樽駅前、中央通:1箇所(小樽駅前通))
	歩道橋	第1,2ビルからバスターミナルへの連絡通路設置(1975年(S50)設置)
	都市の顔	JR小樽駅舎は国の有形文化財に登録(2006年(H18)) 海や駅からの景観は市都市景観賞を受賞(2009年(H21))
	市街地連携	小樽駅を起点として3号埠頭までの歩行者骨格軸(※)を形成
C.新幹線	開業	2030年度(R12年度)札幌延伸予定(新小樽(仮称)駅も同年度開業予定)
		新幹線開業後、並行在来線はJRから経営分離

# 5.小樽駅前広場等の現状について

## 5.2 小樽駅前広場の周辺環境等

### ①周辺環境等 | バス停及び歩道橋



## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.2 小樽駅前広場の周辺環境等

#### ②周辺環境等 | 文化財等の位置

- 中心市街地には、国の有形文化財として登録されている「JR小樽駅本屋」をはじめ、文化財や歴史的建造物が多数点在しており、小樽らしい歴史景観を形成



28/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.2 小樽駅前広場の周辺環境等

#### ②周辺環境等 | 文化財等の位置（JR小樽駅舎）

- 1934年（昭和9年）に建設された道内最古の鉄骨鉄筋コンクリート造の駅舎（2006年（平成18年）：国の有形文化財として登録）
- 2012年（平成24年）、歴史と伝統ある小樽の玄関口にふさわしい外観の復元や耐震性確保、内部リニューアルや店舗の集約配置による利便性向上等を目的に改修工事が完了



29/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.2 小樽駅前広場の周辺環境等

#### ③周辺環境等 | 都市の顔（景観）

- 2008年（平成20年）、小樽駅前第3ビルのリニューアルを契機に、市道中央通線を跨ぎ、駅前第2ビルと旧第3ビルをつないでいた歩道橋や駅前広場の広告塔が撤去された
- これにより、JR小樽駅からは海や港を、海側からは山並みやJR小樽駅を見通すことができるようになり、小樽を代表する景観のひとつが形成されている  
(2009年度（平成21年度）小樽市都市景観賞「小樽駅と小樽港をつなぐ景観軸の創出」)



JR小樽駅からの景観

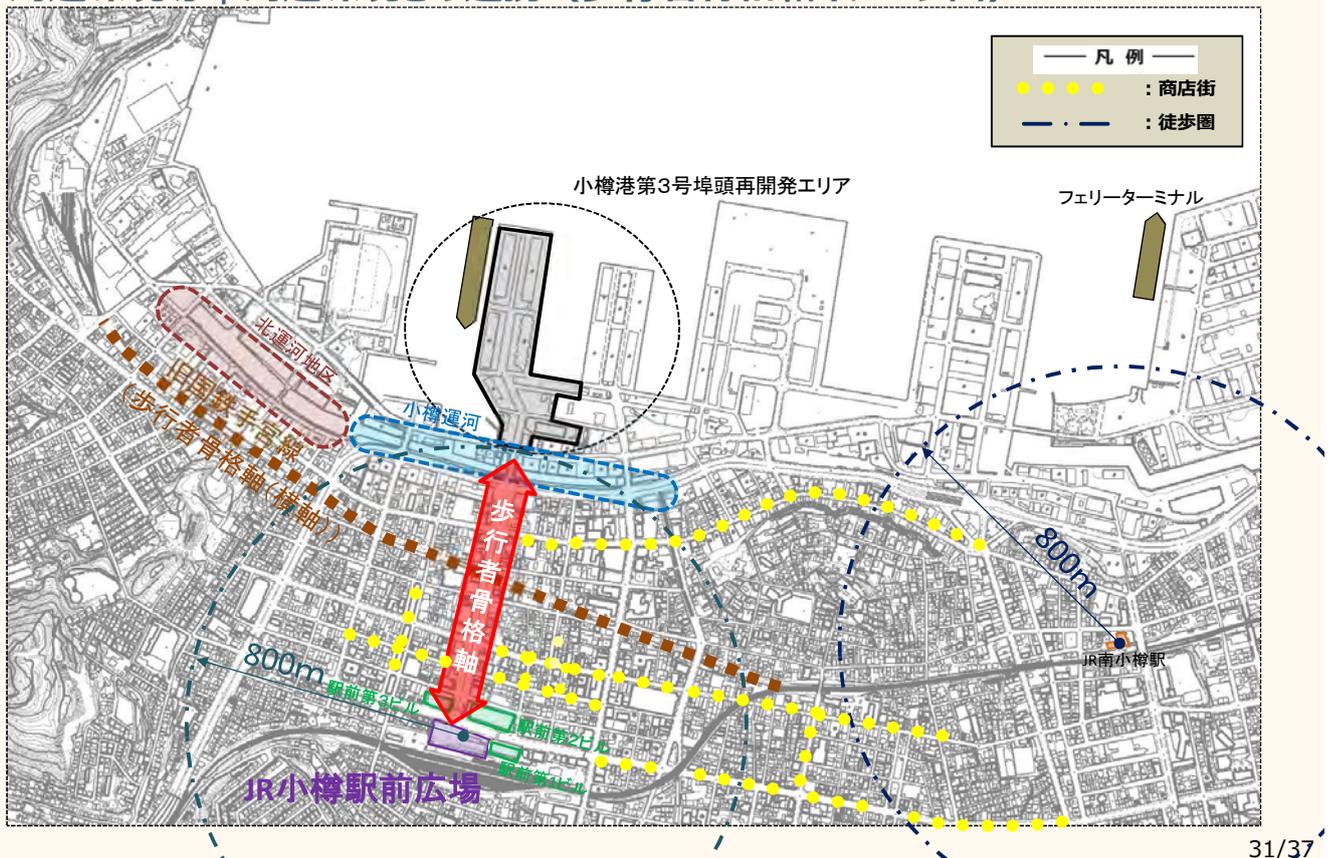


海側からの景観

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.2 小樽駅前広場の周辺環境等

#### ④周辺環境等 | 周辺環境との連携（歩行者骨格軸イメージ図）



## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.2 小樽駅前広場の周辺環境等

#### ⑤小樽駅前第1ビル周辺地区の再開発

- JR小樽駅前広場を中心とする2.8haのエリアは、1969年（昭和44年）都市再開発法施行と同時に同法適用第1号となった、公共団体施行の市街地再開発事業である「小樽駅前地区市街地再開発事業」により、3棟の再開発ビルを含めて1976年(昭和51年)に竣工
- 小樽駅前第3ビルは、2009年（平成21年）に「小樽駅前第3ビル周辺地区第一種市街地再開発事業」によってリニューアルオープン
- 小樽駅前第1ビルは、老朽化や耐震性不足等から、2017年（平成29年）、「小樽駅前第1ビル周辺地区再開発準備組合」が設立され、駅前広場と一体となった再開発に向け検討中

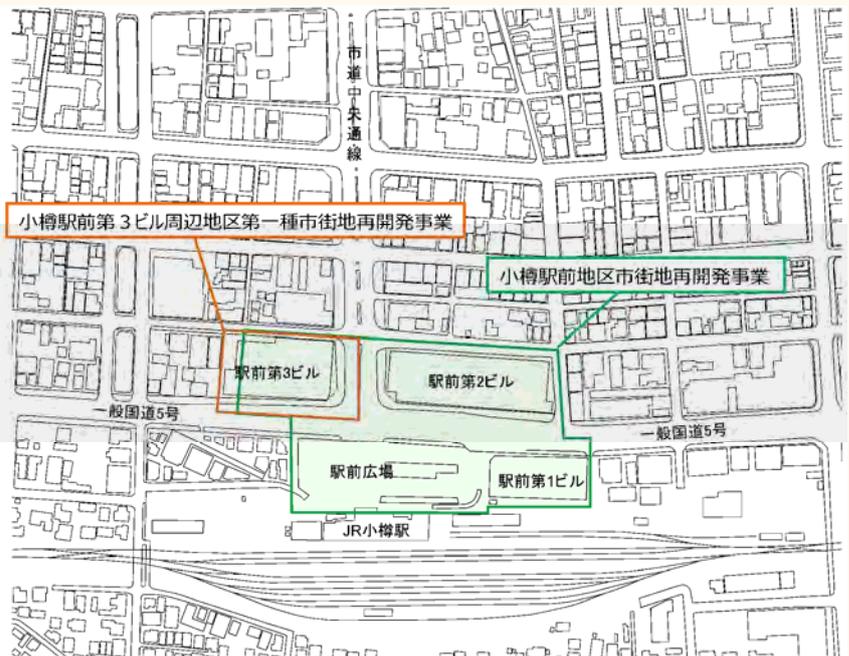


図 市街地再開発事業位置図

32/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.2 小樽駅前広場の周辺環境等

#### ⑤小樽駅前第1ビル周辺地区の再開発

	小樽駅前地区市街地再開発事業	小樽駅前第3ビル周辺地区第一種市街地再開発事業
所在地	小樽市稲穂2丁目及び3丁目の各一部	小樽市稲穂3丁目
施工者	小樽市	小樽駅前第3ビル周辺地区市街地再開発組合
地区面積	2.80ha	0.62ha
用途地域	商業地域(防火地域・高度利用地区)	商業地域(防火地域・高度利用地区)
延床面積	第1ビル: 13,525㎡(築年数46年: R2年時点) 第2ビル: 26,927㎡(築年数45年: R2年時点) 第3ビル: 12,447㎡(ー)	26,658㎡(築年数11年: R2年時点)
主要用途	第1ビル: 店舗、病院、住宅 第2ビル: 店舗・駐車場、住宅 第3ビル: 店舗、ホテル、プール	住居、店舗、ホテル、駐車場
公共施設 (駅前広場)	7,400㎡	ー
事業着手	1971年(昭和46年)1月26日	2007年(平成19年)1月16日
権利変換認可日	1972年(昭和47年)3月16日	2007年(平成19年)3月26日
事業完了	1976年(昭和51年)11月4日	2009年(平成21年)12月25日

33/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.2 小樽駅前広場の周辺環境等

#### ⑥新幹線

※JR小樽駅を起点とし第3号埠頭までの歩行者動線を歩行者骨格軸として表現

項目		現状及び社会情勢の変化		
A.駅前広場 (S51整備)	空間構成	駅前両サイド及び中央に歩行者通路、バリアフリーに対応したスロープ有 中央の横断歩道(幅2m)は委任信号で制御 中央の横断歩道とバスの車路は2か所で交差		
		バス・タクシー・駐車場区画で各々分離され、共用の車路で国道5号と交差(共用の車路は区画線による誘導なし)		
		人が集まれるようなオープンスペースなし		
		公共交通の総合的な案内は小樽駅舎内の1か所となっている		
	施設概要	駐車場:20台,自転車等:150台,バスバース:8台,タクシーバース:4台(乗車のみ),タクシープール:16台		
	関連施設	JR小樽駅、レンタカー施設、交番		
	利用者	JR乗車人員	9,459人/日(2018年度(H30年度))	
		交通量	駅前交差点出入台数:3,731台/12h(2017年(H29)平日)	
		人口	115,621人(2019.3現在)	
		推計人口	2030年(R12):89,561人、2040年(R22):69,422人	
高齢者人口		46,342人(2019.3現在) 推計 2030年(R12):39,352人、2040年(R22):34,403人		
高齢化率		40.08%(2019.3現在) 推計 2030年(R12):43.9%、2040年(R22):49.6%		
自動車保有率		1976年(S51):26%(全国)、2017年(H29):45%(北海道)		
観光入込客数		6,992千人(2019年度(R元年度))		
B.周辺環境	バス停	駅前広場内:8箇所、国道5号:8箇所(小樽駅前)、中央通:1箇所(小樽駅前通)		
	歩道橋	第1,2ビルからバスターミナルへの連絡通路設置(1975年(S50)設置)		
	都市の顔	JR小樽駅舎は国の有形文化財に登録(2006年(H18)) 海や駅からの景観は市都市景観賞を受賞(2009年(H21))		
	市街地連携	小樽駅を起点として3号埠頭までの歩行者骨格軸(※)を形成		
C.新幹線	開業	2030年度(R12年度)札幌延伸予定(新小樽(仮称)駅も同年度開業予定)		
		新幹線開業後、並行在来線はJRから経営分離		

34/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.2 小樽駅前広場の周辺環境等

#### ⑥新幹線 | 北海道新幹線の札幌延伸

- 2030年(令和12年)の開業予定に向け、新幹線駅の開業による地域の活性化やにぎわい等効果を最大限に活用した魅力あるまちづくりを進めるため、平成29年3月に「北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画」を策定
- 『新幹線整備効果を地域全体に生かすまちづくり「小樽の新たな玄関口の形成」』を整備コンセプトとして、「交通ネットワークの形成」を整備方針のひとつとし、JR小樽駅等の交通結節点とのアクセス強化を個別方針として設定
- 2次交通の確保・充実のため、市内各観光地やニセコ町等へのアクセスはJR小樽駅を起終点とした現在のバスネットワークを活用することを前提として、交通事業者との密な連携により、JR小樽駅と新小樽(仮称)駅をダイレクトに結ぶ交通手段の強化を推進



図 新小樽(仮称)駅の位置  
出典:「北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画」

35/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.3 市民意識調査

#### ① 今までの市民意見等

- 過去の小樽駅前広場に関する市民意見(まちづくりシンポジウム(2018年12月開催)等)を整理

主な意見
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 駅舎前の歩行空間が狭く、ゆとりと潤いが不足</li><li>・ 隣接する小樽駅前第1ビルの老朽化、非耐震</li><li>・ 歩行者と車両の動線の輻輳</li><li>・ 広場内の歩行者の乱横断</li><li>・ バスやタクシー、歩道、駐輪場、駐車場等の混在</li><li>・ 信号待ちによる渋滞の発生</li><li>・ タクシー降り場や一般車の乗降場がない</li><li>・ 雑然とした自転車の放置 など</li></ul>

36/37

## 5.小樽駅前広場等の現状について

### 5.3 市民意識調査

#### ② 「駅前広場のあり方に関する市民アンケート」の実施概要

- 市民アンケート調査により、駅前広場の問題点・課題等を把握し、駅前広場の再整備における基礎資料とする

駅前広場のあり方に関する市民アンケートの概要

調査対象	小樽市民(15歳以上)3,000人(無作為抽出)
調査期間	2020年(令和2年)8月上旬~2020年(令和2年)8月中旬
調査方法	郵送によるアンケート調査票の配布・回収
調査内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 駅前広場の利用状況</li><li>・ 利用に関する問題点、課題</li><li>・ 駅前交差点、歩道橋の課題</li><li>・ 駅前広場の将来像 等</li></ul>

37/37